



巻頭言



『コロナ禍と認定産業医制度 ～日本医師会の視線と取り組みについて』

日本医師会 常任理事 神村 裕子

新型コロナウイルスは日本医師会が運用に大きく関わっている認定産業医制度に柔軟な対応と新たな展開を迫ることになった。本稿では去年6月末から担当常任理事として医師会内の産業保健委員会を中心に議論を重ねている認定制度や研修制度をめぐる視点を紹介したい。

新型コロナウイルスの感染拡大は産業医研修会を思うように開催できない状況をもたらし、制度を維持するために主にふたつの対応が必要である。すなわち産業医の認定証の維持と研修単位取得を目指す医師たちの受講機会の維持である。このうち認定証をめぐるのは、東日本大震災で被災した産業医のためにとった措置と同じように、コロナ禍による特段の事情を考慮し単位取得の期限を猶予している。期限後に受講しても更新に必要な単位として認めているので、安心して着実な研修を重ねていただきたい。

一方、研修会をめぐるのはコロナ感染予防策の移動制限や三密回避のために、いわゆるオンラインによる開催を求める声が多いことも認識している。ただ大学教育等で指摘されているように、オンラインだけに頼るのではなく対面の必要性についても考えなければならない。特に産業医研修の場合、資格認定に関わるだけに本人確認と出席確認はもちろん実地研修やグループミーティングなどが欠かせない。受講者が関心を持って取り組めるオンラインならではの講習内容と質の担保はもちろん、映像や音声を的確にやりとりできる受信環境整備も重要だ。同じオンラインを使うにしても、例えば産業保健関係法令の改正についてなどはオンデマンドで確実に受講可能とする必要があるのではないかといった議論も進めている。

こうした視点や議論をもとに、現在日本医師会では新たな本人確認・出席確認を可能とするWeb研修システム(仮称)の開発に取り組んでいる。新たなシステムの運用が受講者の利便性の向上や働き方改革、さらに地方在住の医師の受講機会につながればと期待している。そしてこの新たな研修システムの活用は、日本医師会が全国医師会産業医部会連絡協議会の開催などを通じて取り組んでいる「産業医の組織化」に寄与することは間違いない。

最後に、産業保健制度は事業者や行政も含め多くの関係者の思惑が絡み合っている。産業医部会の先生方からも日本医師会に多くのご意見をいただくことを希望する。

「合格、おめでとうございます!」

～新専門医の抱負～ 喜びの声

2020年12月13、20日に産業衛生専門医試験が行われ、14名の方が新専門医となりました。合格された先生方、おめでとうございます。今後、産業衛生のリーダーとしてのご活躍を期待しております。また産業医部会へも深く関わっていただき、ともに日本の産業医学の発展に寄与していただければと思います。この度、11名の先生方から「新専門医の抱負」のご寄稿を頂きます。

日本産業衛生学会 産業医部会長

斉藤政彦

『産業衛生専門医の抱負』



三井化学株式会社
綾部彩夏

この度、日本産業衛生学会専門医試験に合格することができました。まずはこの場をお借りして、熱心にご指導くださった先生方に心から御礼を申し上げます。

実務では目前の課題への対応に終始する傾向にありますが、試験の対策を通して専門家としては体系的な学びが重要なのだと身にしみました。また、実務での対応事例をレポートに記載する過程で、自身の知識や経験が不足している部分が整理される貴重な機会でもあったと考えています。これからの研鑽に生かしていきたいと思います。

まだまだ専門家として力不足を感じる出来事は多くありますが、様々な背景を持った方や組織との関わり合いを通じて、作用できる存在でありたいと考えております。

諸先生方には今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

『日本産業衛生学会専門医になったの抱負』



オリンパス株式会社
石村大史

この度、日本産業衛生学会専門医試験に合格することができました。まずは、指導医の内田先生ならびに日々お世話になっているオリンパス株式会社関係各位に御礼申し上げます。

振り返れば40歳を過ぎてからの専属産業医転向であり、実務経験はもとより圧倒的な知識不足を痛感しておりました。また、自身の怠惰な性格も十分に自覚しておりましたので、専門医試験をひとつの目標に設定することで産業保健の知識を身に付け、体系的・系統的に実務経験を積みたいと考えたのが発端でした。

今回、幸運にも専門医試験に合格することができ、当初の目的は達したとも言えますが、今に至っては、むしろ依然として未熟な自身に気付かされ、この合格は次へのスタートにすぎないのだと感じています。

今一度、働く人々を支援するという原点に立ち返り、引き続き研鑽を重ねていきたいと考えています。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

『日本産業衛生学会専門医になって思うこと』



株式会社 村田製作所
川村和子

この度の産業衛生学会専門医試験合格にあたり、これまでご指導・激励くださった指導医の内山先生、服部先生に心から感謝いたします。

私の経歴は比較的珍しい部類に入るかもしれませんが。初期研修を終えた後、血液専門医として臨床診療、大学院で免疫学研究に従事しました。また、夫の海外留学に帯同して主婦業(?)に専念した時期もあります。ご縁あって産業保健の世界に足を踏み入れましたが、正直、あまり深い思慮も覚悟も無く飛び込んだと思います。しかし、日々の産業医業務の中でその奥深さを知り、気がついたら夢中で取り組むようになっていました。やりがいのある仕事に出会えた幸運に心から感謝しています。

今回の専門医受験を通して、さらに学ぶべき点が発見できたことは大きな収穫です。今後も諸先生方のご指導を仰ぎながら研鑽に励み、また、これから産業医・専門医を目指す方々にこのお仕事の素晴らしさをお伝えできる専門医になりたいと思います。

『産業衛生学会専門医としての抱負』



岩手医科大学
衛生学公衆衛生学講座
田 鎖 愛 理

この度、産業衛生学会専門医の資格認定を受けることが叶いました。ご指導を賜りました広瀬俊雄先生、中屋重直先生、研修の同士である各務竹康先生、遠藤翔太先生、アドバイスを頂いた荒川梨津子先生、仙台での研修を許可して頂いた坂田清美先生、そして事業場の皆様には、感謝の言葉もございません。また、本年は新型コロナウイルス感染症の影響で、試験委員の先生方には多大なご高配を頂きましたことを深謝致します。

精神科臨床に従事し、精神神経学会専門医試験も受験した立場から双方を比較すると、産業衛生学会専門医試験ではグループダイナミクスや組織力の活用が問われており、臨床医学と社会医学の違いを改めて感じました。今後は、本試験での教訓を糧に、双方の専門性を有する立場から、現場感覚をフルに生かし様々な場面で教育指導を行うべく、更に研鑽を積んで参る所存です。今後ともご指導ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

『卒後18年目の専門医取得、今までとこれから』



東京ガスカスタマーサポート株式会社
全日本労働福祉協会
長濱産業医事務所合同会社
長 濱 さ つ 絵

大学卒業から早18年。皆様の指導により専門医を取得できました。思えば卒後10年くらいまでは、自分が産業医になるなんて思ってもみませんでした。期限ギリギリに基本講座を受け、何とか取得した産業医の資格をきっかけに、所属していた健診センターの営業さんから産業医を打診されたのが2012年。私の初めての産業医活動でした。私にとって幸運だったのは、すでに産業保健のエキスパートだった同期や先輩・後輩が丁寧に丁寧に、産業保健の理念、法令、業務の考え方を教えてくれたことです。その後、様々な嘱託産業医を経験しました。一つの企業でじっくり産業保健の活動をしたいと考え、2020年4月に東京ガスカスタマーサポート株式会社の専属産業医になりました。嘱託産業医から専属産業医という経験を活かし、諸先輩方の背中を追いかけながら、安全、衛生、働き方改革、健康経営、SDGs…個から全体への産業保健活動を目指してこれからも邁進してまいります。

『抱負と提案』



アクセンチュア株式会社
竹 本 毅

Triple Crisis(経済・食糧・気候変動)を解決すべく諸国・諸機関が試行錯誤する中、コロナ禍が世界を襲いました。産業構造のみならず社会の在り方そのものが大きく変わろうとしている時期に、社会医学・産業衛生の専門家として歩む資格を得たことに、意義の深さと使命の大きさを痛感します。今後、取り組む課題は目まぐるしく遷移し、誰もが智慧を絞り続けることになるでしょう。大局観を念頭に置きつつ、目に見える課題、その背後にある本質的な問題の解決に邁進する所存です。

1つ提案があります。仕事上の相談等を行える場(掲示板やSNS等を含め)を学会に設けることは可能でしょうか。日本内科学会には専門医専用メーリングリストがあつて症例相談等が行われていますし、産業医有志でなさる方々もいると思いますが、産業衛生の問題は多職種で取り組むほうが良い智慧が出るはず。学会員専用など、ある程度クローズにする必要はありますが、御検討頂けますと幸いです。

『日本産業衛生学会 専門医となつて』



株式会社 ビスマド
順天堂大学医学部総合診療科
林 幹 浩

おかげさまで専門医試験に合格させていただきました。

これも、親身のご指導いただいた先生方、多くのご助言をいただいた先輩の諸先生方、温かい励ましをくれた多くの仲間のおかげです。改めて深くお礼申し上げます。本当にありがとうございます！

産業医大出身でもなく、社会人経験後に医師となつてから臨床8年の経験後、多くの企業で産業医をさせていただきいわゆる独立系産業医となり、法人としてチームで複数のクライアントにコンサルティングをさせていただいている私として、専門医となることは非常に重大な目標でした。

これを機にますます産業医として価値ある実践を行ってゆくことはもちろん、及ばずながらご恩返しとして、専門医にこれからなろうと考えるみなさんや、専門医の位置づけをより社会的に高めたいと考える先生方(ご関係者全員かと思いますが)に、なんらかの貢献ができればと考えております。お声掛けいただければ幸甚に存じます。

『専門医としての抱負』



HOYA株式会社
HOYAグループOSH推進室
廣里 治奈

この度、日本産業衛生学会専門医試験に合格することができました。日頃よりご指導いただきました先生方や多職種の皆様、そして切磋琢磨した仲間へ、心より御礼申し上げます。

実務研修手帳の作成や試験勉強は、自分の課題に気付くきっかけとなりました。また、これまでの活動を振りかえり、知識を整理することができたため、大変有意義な時間になったと感じております。

専門医の取得は、長い産業医人生におけるひとつの通過点に過ぎず、これからどのように活動していくかが重要になると考えております。今後も、産業保健の現場に限らず、様々な変化が生じると思いますので、いかなる状況においても対応し、社会に貢献できるような産業医になりたいと考えております。引き続き研鑽を積んで参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

『日本産業衛生学会専門医になったの抱負』



パナソニック健康保険組合
村野 哲也

日本産業衛生学会専門医試験に合格させて頂き、有難うございます。試験に向けて勉強をする中で、これまでの実務を省み、反芻し、理解を深めることができ、大きな学びとなりました。パナソニック健康保険組合に迎え入れて頂き、この6年、国内外のオフィスや製造現場など種々の事業場を経験させて頂きました。その中で、指導医の伊藤正人先生、直属上司の橋口克頼先生、諸先輩先生方、同僚・後輩の先生方、協働して頂いている看護職の方々や、事業場安全衛生担当者、従業員の方々から多くの事を教えて貰い、産業医としてだけでなく、人としても、本当に沢山の事を学ばせて頂いている事に改めて幸せを感じ、深く感謝をしております。

一方で、試験を通して、自身の足りなさもまた改めて痛感しており、事業場と働く人々の安全衛生の保持増進により一層寄与できる様、精進していきたいと思っています。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

『専門医試験合格とその先を目指して』



住友電気工業株式会社 大阪本社
森 貴大

まずはコロナ禍において、試験の実施に向けてご尽力いただいた先生方、事務局の皆様はこの場を借りて御礼申し上げます。専門医という資格は産業医を志望した際の目標の1つとしておりましたので、無事に専門医試験に合格することができ大変嬉しく思います。ご指導頂いた先生方、本当に有難うございました。

専門医試験に向けて、同期や受験生の先生方と意見交換しながら、また家族のサポートを得ながら学習に励むことができ非常に有意義でしたし、産業保健分野の奥深さを感じモチベーションをさらに高めることができました。今回、専門医取得という目標を達成できましたが、自らに何か変化が起きたわけではないので、より一層チャレンジしていきたいと思っております。伸び代は無限にあると自分自身に期待して、諸先生方のように、時代の変化に柔軟に対応し、時代を先取りできるような産業医を目指したいと思います。今後ともご指導の程宜しく申し上げます。

『日本産業衛生学会専門医試験を終えて』



三菱重工業株式会社 人事労政部
長崎人事労政グループ
健康衛生チーム 兼
三菱パワー株式会社 安全環境管理部
長崎安全環境課
安武 正矢

皆さん、ご安全に！ ご健康に！（三菱重工業のあいさつです。）この度、日本産業衛生学会専門医試験に合格することができました。指導医の森先生、北原先生をはじめ、ご指導いただいた先生方にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

今回、筆記試験の佐賀会場は受験生2人、試験官2人という少人数に驚きながらの受験となり、webでの面接試験はとても緊張しましたが、通信障害などもなくなるとか終了することができました。今回の試験や試験勉強を通して「産業医には幅広い知識が必要であること」「労働者、事業者それぞれの立場に立った考え方ができることの重要性」を改めて実感しました。特に面接試験では「在宅勤務が続く社員の心細さ」も実感しました。これらのことを今後の産業医活動に生かしつつ、産業衛生学会専門医の名に恥じないよう研鑽を積んでいきますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

誤表記に関するお詫び

産業医部会報第71号2ページ目2020年度産業医部会総会について、**2019年度事業報告**の3. 研究支援の強化「第29回全国協議会(仙台市)における、ポスター優秀賞授与」の記事の中で、受賞者である横田直行先生の所属が三菱化学大牟田となっていました。三井化学大牟田工場の誤りでした。所属を間違えるという大変失礼なことをしてしまい、横田先生にはこころから謝罪いたします。今後このようなことの無いように努めてまいります。大変申し訳ありませんでした。

誤) 横田直行 (三菱化学大牟田)

正) 横田直行 (三井化学大牟田工場)

産業医部会会長 齊藤政彦

社会医学系専門医制度

『社会医学系専門医・指導医 に関わる情報提供(第9回)』



社会医学系専門医試験報告と専門医指導医更新について(その2)

産業医科大学 産業生態科学研究所 作業関連疾患予防学
(社会医学系専門医協会 理事 専門医試験部会長)

大神 明

□社会医学系専門医・指導医更新について～更新延長の話

今年の4月以降、第1回目の社会医学系専門医・指導医更新が予定されている。社会医学系専門医協会が発足し、専門医及び指導医が経過措置にて認定されて初めての更新となる、更新対象は登録番号の冒頭が「17-」の方であり、約3000名が対象となる見込みである。しかしながら、昨年来のコロナ感染症により、講習会や学会開催が変則的になり、単位取得が困難な状況にあったこと、また、行政を主分野とする社会医学系専門医・指導医の方にはコロナ感染症対応に追われ、単位取得が困難な状況にあったこと等を鑑み、更新の1年延長が特例として認められる予定である。詳細は4月以降に協会のホームページでの案内を参照いただきたいと思うが、延長を希望される方は、

- (1) 本年4月以降の年間登録料の請求時に、事務局より当初の予定通り5年で更新されるか、1年延長して6年で更新されるか問い合わせがあるので、6年で更新される場合には、指定期日までに延長届の提出をすること。
- (2) 延長届を提出された方が更新の申請を行う際に、1年間の延長につき、審査料が増額されること等の基本方針が決定している。

前回も書いたが、更新の際の資料を以下に再掲載する。更新の際には、以下の提出をもって審査を受けていただきたい。(尚、この原稿作成時点(2月26日)で得られる情報を元に作成していることをご了承いただきたい。)

- (1) 更新申請書(第1号様式)
- (2) 社会医学系分野での勤務実績申告書(第2号様式)
- (3) 社会医学系分野での活動実績申告書(第3号様式)
- (4) 社会医学系分野に関連する講習の受講(K単位:10単位)実績報告
- (5) 社会医学系分野に関連する学会・団体活動(G単位:10単位)の実績報告

社会医学系専門医制度プログラムの紹介



『社会医学系専門医研修—美し国みえプログラム—について』

(東海地方会)

富士フィルムマニュファクチャリング株式会社 吉田 美昌

三重県の「美し国みえプログラム」は、主分野である「行政・地域」に主軸を置きつつ、副分野である「産業・環境」および「医療」の2分野を重視して相互に連携した研修を実施することで、高度な専門性を備えた社会医学系専門医を育成することを目指しています。

このプログラムの最大のポイントは、三重県で社会医学を学ぶというところです。

プログラム名にある「美し(うまし)国」という言葉を皆さんご存じでしょうか。「美し」とは、満ち足りてこちよ、美しく立派である(広辞苑[第七版])という意味の言葉で、万葉集や竹取物語にも見られます。三重県は同規模の都市が群雄する上に、産業が盛んな若い世代が多い地域、山間部の高齢者が多い地域など、ライフスタイル・文化・習慣などが異なる個性的な地域が多くあります。このような観点から「美し国」とは、三重県が多種多様な地域からなる豊かな国であることを示しているのです。また、三重県は多くの統計指標で日本の中位付近にあり、日本で1番、日本の標準に近い県であると言えます。そのため、三重県で社会医学を学ぶことにより、全国に通用する公衆衛生医・産業医としてのスキルを身に付けることができます。

また、本プログラムの特徴はいわゆる「オーダーメイド研修」です。保健所や地方衛生研究所を必須研修現場としながら、その他の選択研修現場(県機関・教育研究機関・医療機関・事業所など)において、専攻医の希望と意欲に合わせて柔軟に研修を受けることができます。もちろん、このプログラムの中で産業医研修を受講し、日本医師会認定産業医の資格を取得することも可能です。

2013年10月に伊勢神宮で行われた式年遷宮は、持統天皇4年(690)から20年ごとに大御神(おおみかみ)に新宮へお遷りいただくお祭りで、9年の歳月をかけて33の神事が執り行われます。俊恵(しゅんえ)の林葉和歌集(りんようわかしゅう)にもある「常若(とこわか)」の精神を体現したもので、今というサステナビリティ(持続可能性)の精神にも通じるといわれています。また、式年遷宮には長い年月をかけて行われる行事の中で、職人から職人へ技術を伝え、親から子へ、子から孫へと伝統を継承していくという意味もあります。

今世界中を不安に陥れている新型コロナウイルス感染症や大震災など社会情勢は日々変化しています。公衆衛生における課題も常に変化しています。新しい時代に即して対応していく「常若(とこわか)」の精神が公衆衛生の世界にも求められているのです。そのためまずは、社会医学系専門医としての基本スキルを、3年間じっくりと時間をかけて皆様に伝承したいと考えています。

あなたも「美し国」で社会医学系専門医を目指してみませんか？

第94回 日本産業衛生学会 産業医部会フォーラムのご案内(第2報)

担当 北陸甲信越地方会 幹事 **服 部 真**
 (石川勤労者医療協会城北病院)
 北陸甲信越地方会 幹事 **塚 原 照 臣**
 (信州大学医学部産業衛生学講座)

新型コロナウイルス感染症の流行により、テレワークの導入が加速しています。情報通信技術を利用したテレワークは、時間と場所の有効利用、生産性や営業効率の向上、ワークライフバランスの実現などに寄与し、働き方そのものに大きな変革をもたらしています。一方、急速に変化を遂げる職場環境の前に、産業保健活動にも様々な対応が求められ、新たな課題に直面しています。以上の背景を受け、下記の演者の皆様にご登壇いただき、テレワークと産業保健について見識を深めるフォーラムを企画いたしました。産業医部会会員をはじめとする多くの皆様にぜひともご参加いただき、活発な意見交換をお願いいたします。

なお、現在のところ現地開催による準備を進めていますが、新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、開催形式の検討、収容人数の制限を検討いたします。あらかじめご了承ください。

日 時：2021年5月21日(金曜日) 午後(予定)

場 所：深志神社梅風閣 長野県松本市深志3丁目7-43(予定)

テーマ：テレワークと産業保健

演 者

ニューノーマルにおける新たな働き方

阿 萬 野 晋 (富士通株式会社 総務・人事本部)

テレワークにおけるVDT症候群とその予防策について

原 直 人 (国際医療福祉大学 保健医療学部視機能療法学科)

遠隔産業衛生の現状と課題

石 澤 哲 郎 (産業医事務所セントラルメディカルサポート/遠隔産業衛生研究会)

テレワークの導入による産業保健活動の変化

濱 田 章 裕 (株式会社 電通)

総合討論

座 長 高 山 英 之 (株式会社 高山産業医事務所)

杉 原 由 紀 (高知県庁総務部職員厚生会)

(敬称略)



第31回 日本産業衛生学会全国協議会のご案内



運営実行委員長

シャープディスプレイテクノロジー株式会社
三重事業所

(東海地方会)

酒井 秀 精

第31回日本産業衛生学会全国協議会を2021年12月3日(金)から12月5日(日)にかけて、三重県津市の三重県総合文化センターにて開催を予定しております。三重とこわか国体が9月末から10月初めに開催されることからこのような日程で開催することとなりました。現在のところ現地開催とweb配信を組み合わせたハイブリッド方式を模索中ですが、この先の状況によっては変更も視野に入れていきます。

本学会のメインテーマは「経済社会と健康：ポストコロナの産業衛生を考える」です。

わが国経済の低迷と人口構造の高齢化が進む中で、昨年、突如新型コロナウイルス感染症が出現し流行が続いています。ワクチンの予防接種がはじまったとはいえ、まだまだ先行きは不透明です。経済社会のあり方は大きく変化し、産業衛生学が目的とする働き方の変革の意味と意義が問われています。作業環境の在り様は変わり、産業衛生の内容も方法も大きな変革期を迎えようとしています。

今回の学会は、産業衛生学自身が、これまでの歴史を踏まえつつ新しい世界情勢の中で自らを変革する意志を明らかにし、その目的と方法論について隣接する諸科学との対話の中から新しい変革の方向性を探る機会にしたいと考えております。

開催地となる三重県は「うまし国」ともいわれ、松阪牛、伊勢海老など新鮮な海・山の幸に恵まれた地であります。また、伊勢神宮(正式には神宮)、伊賀忍者、鈴鹿サーキット、熊野古道なども三重県にあります。

一方、産業保健関連では四日市公害の疫学と克服に画期的な事績を残した吉田克己名誉教授(三重大学)が光彩を放っておられます。

ポスターには伊勢神宮への参拝の前に心身を清めるところである二見興玉神社の夫婦岩の日の出と四日市コンビナートの夜景をデザインしました。

本学会がポストコロナの産業衛生の新しい原点を考える場所と時間となり、皆様方にとって実り多く有意義なものになることを祈念しております。

**第31回日本産業衛生学会
全国協議会**

**経済社会と健康：
ポストコロナの産業衛生を考える**

現地会場開催およびライブ配信開催 2021年12月3日(金)～5日(日)

オンデマンド配信開催 2021年12月3日(金)～19日(日)
新型コロナウイルス感染症の流行状況により変更の可能性がございます。

会場 三重県総合文化センター (三重県津市)

企画運営委員長 筈島 茂 (三重大学大学院医学系研究科 公衆衛生・産業医学分野教授)

運営実行委員長 酒井 秀精 (シャープディスプレイテクノロジー(株) 三重事業所)

決起募金期間 2021年6月21日(月)～7月30日(金)

<http://procomu.jp/sanei-zenkoku2021/>

主催 株式会社プロコムインターナショナル 〒135-0063 東京都江東区有明三丁目4番地11 TTTビル東館7階
TEL: 03-5520-8821 FAX: 03-5520-8820 E-mail: sainei-zenkoku31@procomu.jp

第30回 日本産業衛生学会全国協議会



『第30回日本産業衛生学会全国協議会 開催報告』

(九州地方会)

実行委員長
株式会社 SUMCO 彌 富 美奈子

第30回全国協議会を実地開催からWeb開催に舵を切ったのが昨年5月のことでした。それからはWeb開催の運営面で不安を感じながら、ほぼ毎週Zoom会議で議論を重ねていきました。演題登録数や参加者数の見通しがつかず危惧しておりましたが、最終的には一般演題68題、参加者1395名といずれも予想をはるかに超え、盛会裏に終えることができました。参加者・関係者の皆様にお礼申し上げます。

本協議会のメインテーマは「多様性を支える産業保健」であり、鹿児島県の偉人の教え、現在の産業保健の様々な課題、さらに新しい産業保健の分析や技術といった過去から現在、未来への時間軸と「多様性を支える産業保健」の織り成すテーマを皆さまに感じ取っていただけたのであれば、嬉しい限りです。

また今回は地元の産業医の先生方への日本産業衛生学会のご紹介を兼ねて、プレ企画として「ロケット打ち上げ事業における産業保健活動」、「職場における新型コロナウイルス対策」のシンポジウムの動画配信を行いました。演者、座長すべて医部会員の先生方にご協力いただき、お蔭様で地元の先生方からも高い評価を頂くことができました。

ポスター発表では、全国協議会では初となるZoomを使用したセッションを行いました。想定以上に多くの方々にご参加いただき、中には70名を超えるセッションもありました。また会期中に8つの自由集会が開催されました。

さらにZoomによる懇親会を開催しました。企画運営委員長の挨拶、理事長のご挨拶、神代・永田両先生のビデオレター、産業医・産業看護両部会のポスター発表優秀賞の表彰と受賞者のご挨拶の後に乾杯となりました。その後テーマ別トークルームに移動し、ご歓談いただきました。次回開催の学会・協議会の企画運営委員長及び九州地方会会長のご挨拶で締めくくり、短時間ながらも充実した懇親会でした。

日医や社会医学系の単位について、ご要望にお応えし準備したのですが、至らぬ点も多くご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。参加者が視聴された上でコメントに投稿された課題については、事務局からのコメントとしてできる限りお答えするようにしました。

鹿児島県民交流センターの写真を見ると、改めてここで皆様をお迎えしたかった思いがよぎりますが、協議会初のWeb開催に携わることができたことは貴重な経験になりました。

最後に改めて協議会開催にあたり、ご協力いただきましたすべての産業医部会員の先生方にお礼申し上げます。ありがとうございました。

鹿児島から次回開催地・三重の企画運営委員会の先生方へ、エールと共にバトンをお渡したいと思っております。



小田原 努企画運営委員長ご挨拶



川上憲人理事長ご挨拶

Ploom TECH(ブルーム・テック)
肺から呼出される
エアロゾル(霧・ミスト)
= 受動喫煙

肺中粒子状物質 (PM2.5) 濃度 (μg/m³)

1m

大和 浩先生 教育講演



黒崎先生司会で懇親会スタート



ポスター賞受賞の世古口真吾先生へ、斉藤部会長より表彰





『第30回日本産業衛生学会全国協議会 プレ企画研修会参加体験報告』

(九州地方会)

医療法人 玉昌会 鯉坂クリニック 岡野 一 樹

令和2年11月3日(火・祝)、第30回日本産業衛生学会全国協議会／プレ企画研修会が、鹿児島県医師会館大ホールにて行われました。全国協議会は、コロナ禍の影響でオンライン形式での開催となりましたが、先だっで行われたこの研修会は現地鹿児島での開催となり、検温・マスク着用徹底等の感染対策のもと、多数の参加者が集い大変盛況な研修会となりました。

はじめに、三菱重工業株式会社の石川浩二先生より、「ロケット打ち上げ事業における産業保健活動」と題してご講演をいただきました。鹿児島県にはロケット射場が2カ所あり、種子島宇宙センターからはH-IIA等のロケットが打ち上げられます。三菱重工業ではロケットの生産から種子島での打ち上げまでを一括担当されており、産業保健スタッフがその中で、どのような環境にて、いかに工夫して活動されているかお話を頂きました。もとより制約・制限の多い環境に加えてコロナ禍という逆風の存在下、事業所での平時の感染防止策の策定・実行、打ち上げ数日前に現地で行う担当者への健康診断、打ち上げ当日管制ルームにスタッフと一緒に詰めての健康管理など、まさに国家的プロジェクトの屋台骨を支える産業保健活動の一端を垣間見ることができました。

次に、「職場における新型コロナウイルス対策」というテーマでシンポジウムが開催されました。基調講演として、国際医療福祉大学教授 和田耕治先生より「職場における市型コロナウイルス対策～これまでとこれから～」と題し、新型コロナウイルスに関する最新の知見と対策についての紹介がなされました。引き続き2名のシンポジストによる講演が行われ、日本製鉄株式会社東日本製鉄所・宮本俊明先生より「職場において産業保健職に求められる主な役割と、その重要性について」、九州旅客鉄道株式会社・浅海洋先生より「企業における新型コロナウイルスへの対応と対策」と題してお話をいただきました。宮本先生からは「職域のための新型コロナウイルス感染症対策ガイド」作成の経緯や、産業保健職の会社への関わり方について、浅海先生からは自社の従業員のみにとどまらず、顧客(鉄道事業)や株主(株主総会)も照準に入れた感染防止策の策定・実行という観点からご講演を賜り、大変勉強になりました。

オンラインを組み込んだ新たな形での研修会でしたが、トラブルも皆無でした。関係者の皆様に御礼申し上げます。





『第30回日本産業衛生学会全国協議会

教育講演9 を聴講して』

(九州地方会)

三菱重工株式会社 人事労政部 長崎人事労政グループ
健康衛生チーム 兼
三菱パワー株式会社 安全環境管理部
長崎安全環境課

安 武 正 矢

今回、誌上・Web開催となった第30回日本産業衛生学会全国協議会の「教育講演9：産業医として知っておくべき色覚多様性とカラーユニバーサルデザイン」を聴講しましたのでその参加体験記を投稿させていただきます。

まず、普段の学会であれば、発表や講演時間同士の兼ね合いなどの関係から聞きたい講演を聞けないこともありましたが、Web開催となったことでしっかりと講演を聞いたことは勉強中の身としては大変ありがたいものでした。

最初に座長である黒崎靖嘉先生による冒頭の導入部分にあった夫婦茶碗の話聞いた時点で目から鱗であり、日常生活から困ることが多いということに気づけていなかった自分に反省しながら聴講しました。

講演は岡部正隆先生による「色覚異常には3タイプある」という基本情報から始まり、黒崎先生の抄録にあるように、「色覚多様性・カラーユニバーサルデザイン(以下CUD) という概念に対する入門編」として右も左も分からない私にとって入りやすい構成となっており引き込まれていきました。すべての話について思ったこと、勉強になったことを述べていきたいのですが、特に印象に残った以下の点に絞って述べさせていただきます。【色覚異常者には周囲にカミングアウトすることはメリットがないため、周囲は求められてなくても情報を発信する側の積極的な対応が必要】【色弱は日本には男性5%、女性は0.2%、労働者では2.5%いる】という内容がとても印象的でした。普段の産業医活動をしていると、既に取り組まれていること(言語の多様性に対してマークや絵で表現する、身体能力の多様性に対してバリアフリー等) 以外については個人々人からの申し出(問診票への記入含む) をスタートとして配慮を始めていました。しかし、色覚異常者の頻度が多いことを知らず、色覚の多様性を考えていませんでした。しかも、大きく変更するというよりは例えば、「赤 → 朱色」という小さな変更で解決できることも多く、「発信側が知るだけですぐに対応出来る」のに、今まで気づいて来られず、多くの場面でそのような方たちを情報弱者にしてしまっていたことを改めて実感しました。資料作成や教育の機会が多い職業であるため、今後は具体的方策として紹介いただいたCUD機構のWebサイトなどを利用しながら取り組んでいきます。

最後になりましたが、この講演開催に関わられた多くの先生方に御礼申し上げ、私の体験記を閉めさせていただきます。

カラーユニバーサルデザイン3つのポイント

- できるだけ多くの人に見分けやすい配色を選ぶ。
- 色を見分けにくい人にも情報が伝わるようにする。
- 色の名前を用いたコミュニケーションを可能にする。





『第30回全国協議会(鹿児島)メインシンポジウム参加体験記』

(九州地方会)

鹿児島生協病院 神 渡 幹 夫

メインシンポジウム「多様性を支える産業保健」は、少子高齢化の社会を迎えるに当たり、働く方の多様性に着目し、外国人労働者、障害者、高齢労働者、女性の学会参画について取り上げ、現状や問題点が報告されました。新型コロナウイルス感染症の蔓延のために、Webにて開催となってしまいましたが、演者間での熱心な討論が行われました。

株式会社クボタ筑波工場の加部勇先生は企業における外国人労働者の現状と健康支援の在り方について、外国人労働者を迎えるにあたっての苦勞や、産業保健によるサポートについて報告されました。

ジャトコ株式会社 西 賢一郎先生は、日本産業衛生学会ダイバーシティ推進委員会委員長の立場から、主に女性の社会参画について報告されました。ダイバーシティ推進委員会はそもそも会員の多様性を考慮した学会活動を推進することを目的に設立された委員会ですが、今回は特に女性の学会参画などに焦点を絞り、取組の経緯や調査結果報告されました。

TOTO特例子会社 第三セクター 重度障がい者多数雇用企業であるサンアクアTOTO株式会社 田中江見社長は特例子会社の設立の背景、理念、事業活動内容や、ノーマライゼーションの取り組み、今後の課題につき報告されました。

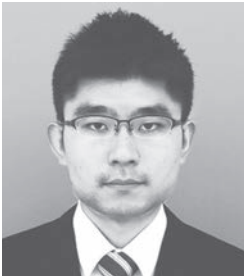
高齢・障害・求職者雇用支援機構の矢田 玲湖先生は、高齢者雇用の立場から高齢者を取り巻く状況、高齢者を活かす職場づくり、安心して働ける職場環境の取組事例につき報告されました。

討論では、新型コロナウイルス感染症の影響で外国人の入出国の制限で就労困難な状況となったこと、障がい者が自宅待機で生活リズムが乱れ回復に時間を要したこと、高齢者在宅ワークのITスキル不足のサポートが必要とされたことなどの問題点が指摘されました。一方、学会はweb開催になり女性会員の参加が増加したなどの報告もありました。

外国人、女性、障がい者、高齢者だけでなく、働く人全てを支えるために多様性をいかにサポートしていくかということが問われていると思われた。



『ポスター発表優秀賞を受賞して』



(九州地方会)

産業医科大学 産業生態科学研究所
作業関連疾患予防学

世古口 真吾

この度、第30回日本産業衛生学会全国協議会において、産業医部会ポスター発表優秀賞をいただくことができました。本研究にご協力いただきました事業場の皆様と、ご指導いただきました先生方には、この場を借りて御礼申し上げます。

少し自己紹介させていただきますと、私は学位と専門医を取得するために、2019年度より産業医科大学で研究と研修(嘱託産業医活動等)を行っています。実は私は本学の卒業生ではないのですが、周囲の皆様のおかげですんなりと溶け込むことができ、毎日が刺激的で勉強になりますし、そして何よりも、日々楽しく過ごすことができしております。

さて、今回のポスター発表ですが、私が発表したのは「ウェアラブルパーティクルモニター(WPM)の粉じん発生職場環境での活用」という研究になります。WPMは、簡便かつ安価に職場環境における粉じん発散状況をリアルタイムに把握し、労働者の粉じんばく露状況を概観することを目的として製作されました、手のひらサイズの機器です。このWPMを活用することによって、粉じん作業従事労働者の健康障害防止のための効果的な取り組みにつながる可能性があると考え、大学院で研究を行っています。今回の研究はその一貫として、実際の職場環境においてWPMを使用して粉じん濃度を測定し、さらにそれと並行してGNSS(Global Navigation Satellite System)を利用したスマートフォンの位置計測アプリケーションを使用して位置情報(経度・緯度)を取得することで、当該環境における粉じん発散状況を把握するという試みでした。本研究の肝は、粉じん濃度と位置情報を組み合わせることで粉じんレベルのヒートマップを作成したことです。このヒートマップがポスター発表という形式にマッチしたのではないかと考えています。

実は、本研究ははじめからヒートマップの作成を意図していたわけではありませんでした。元々は、純粋に粉じん濃度のみを測定することを目的としていましたが、移動経路の記録も兼ねて位置情報も同時に取得しておこうと思い立ったのがきっかけになりました。そういったちょっとしたひらめきや偶然を、今後の研究においても大事にしたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いいたします。



教授とディスカッション

第25回 産業医プロフェッショナルコース



山本 誠



加藤 憲忠

『開催のご報告』

主催 日本産業衛生学会 産業医部会

後援 一般財団法人 労働衛生会館

実行委員長 山 本 誠

企画運営委員長 加 藤 憲 忠

2021年1月30日(土)、31日(日)の2日間にわたり、初のWeb形式で第25回目のコースを開催致しました。研修テーマは「パワハラ予防の助言を求められた時にどうしますか? 個人と組織にささる3つの手法」。2020年6月にいわゆるパワハラ防止法が大企業に施行され、対策の主体者は人事や会社ですが、企業から「パワハラを予防するのにいい方法ないですか?」と相談された時に適切な助言が出来ることを目指して企画しました。

初日は、株式会社メディカル・マジック・ジャパン平野井労働衛生コンサルタント事務所の平野井啓一先生にご登壇いただき、「職場に活かすアンガーマネジメント」について講演とグループワークを実施致しました。怒りというものの解説から、そのコントロールの仕方、さらには管理職としての叱り方、さらには価値観の共有について、グループワークも交えて活発なやり取りが行われました。

続いて初日の後半では、一般社団法人日本ほめる達人協会理事長の西村貴好先生をお迎えし、「褒める達人 心の報酬を考える」と題した講演とグループワークを実施致しました。講義の中では褒めることの効果と影響、さらには普段から使える具体的な褒める指導の仕方について、事例も含めて説明いただき、またグループワークで参加者相互の褒める力を高めていただきました。

また恒例の懇親会もWeb上で短い時間ではありましたが、参加者や講師、事務局のメンバーで実際の事例に関する相談や意見交換が活発に行われました。

2日目は産業医科大学の柴田喜幸先生をお招きし、「ケースで考える社内パワハラ縮小プログラムの構築ワークショップ」を行いました。法律や医学だけでは解決が難しいパワハラそのものが起きる組織に対して、架空のケースを題材に組織開発の手法を用いるグループワークを行い、最終的には参加者それぞれの職場での課題をどのように解決していけばよいかを検討しました。

今回は初のWeb開催で事務局としても大きなチャレンジでしたが、遠方の方や時間的制約がある方からは、Webだから参加出来たというコメントをいただき、事後のアンケートでも高い評価をいただくことが出来ました。

ご参加いただきました先生方のご協力により盛会のうちに終えることが出来ましたことを、実行委員一同感謝申し上げます。来年も引き続き魅力的なコースを企画しますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

『産業医プロフェッショナルコース参加体験記』



(関東地方会)

合同会社ロハジョイ 中澤祥子

今回、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言中という状況に伴い、Pコースも初のオンライン開催となりました。私自身は、Pコースは2回目の参加でした。参加した動機は、実践的な知識を手に入れるためでした。最近の産業医面談では、社員の自己決断を促す必要がある面談が多く、今回の内容は確実に今後の産業医面談に役立つであろうと感じたからです。また、前回の懇親会は大盛り上がりで、企業で高品質なサービスを提供している産業医の先生方と知り合う機会を得られたというのもありました。

オンライン開催でのセミナー参加は慣れていましたが、前回のようなPコースのクオリティを保てるのか？と少し不安になりました。しかし講義内容は斬新、新鮮で、一方的な講義ではなくディスカッションタイムなど様々な工夫をされており、講師陣と運営委員会の皆様の努力と情熱が感じられる時間でした。

平野井先生のアンガーマネジメントの講義は、大変実践的で、怒ることを我慢するのではなくコントロールするというのが印象的でした。また組織づくりもアンガーマネジメント視点で行うという手法を初めて聞き、パワハラ対策はもちろんのこと風通しが良い組織づくりの参考となりました。

その次のほめる達人協会の西村先生の講義も、目からうろこの内容が多く、ほめることは自分のために行うという言葉が心に深く刺さりました。おそらく先生方も企業訪問の際に、相手のためにとはい褒めることを意識的に行う方が多いと思うのですが、「周りをほめて輝く周囲の人たちの輝きが自分に返ってくる」というところまで深く考えたことがなかったので、新しい発見となりました。

2日目の柴田先生の講義ではディスカッションを行いながら進行されましたが、途中で時間が足りなくなるというハプニングがありました。そこに対して柴田先生は「今後先生方はこのような研修を行う立場になるのだからタイムマネジメントも行うべきであり、失敗から学ぶべき」とおっしゃられて、本当にその通りだと感じました。内容も日常業務でありそうなケースから発展し、組織開発をするための考え方を学びました。

あっという間の2日間でしたが大変勉強になりました。以前のような泊まり込みの懇親会がなかったのは残念ですが、本当に参加して良かったと感じました。ありがとうございました。

『産業医プロフェッショナルコースを受講して』



(関東地方会)

株式会社 産業医システムズ 絹川千尋

私は昨年度まで大手企業での常勤産業医をしていましたが、現在は嘱託産業医をメインとして活動しております。嘱託産業医というのは基本的に1人体制です。訪問時間外でも、複数の産業医で検討するような場というのはなかなかありません。数年産業医をしていると、ふとした時にこれで合っていたのだろうか、他に良い方法があったのではないかと考えてしまいます。プロフェッショナルコースでは、単なる講義ではなく、参加者の先生方と議論ができるため、産業医をして自分の価値判断、考え方の方向性があるのか確認ができる研修だと感じました。「プロフェッショナル」という名称からも、参加している先生方の意識が高く、議論も非常に実のある議論ができ、全体で8時間という長丁場の研修でしたが、その時間以上の知識を得られる研修でした。

今回のテーマは「パワハラ」ということで、産業医としての対応に非常に苦慮する場面が多いテーマでした。パワハラを受けたと感じる社員はメンタルや体調不良をきたすので必然的に産業医に相談にくることが多くあります。特に中小企業では相談窓口が整っていない場合も多いため、プロの産業医として避けて通ることはできない内容です。しかし、対応として王道の方法があるわけではなく、関係者の心理状況や企業特性などに合わせてケースバイケースで手法を変える必要があるため、ケースを提示して議論するという形式は特に有用でした。

また、どの講義もポイントを絞って講義してくださるので、独学で学ぶよりも効率的に学べます。普段の産業医向けの学会や講演会等ではなかなか学べないような内容も多く、勉強になりました。

そして、産業医として意識の高い先生方と交流できる点も非常に大きなメリットです。冒頭で述べたように産業医は一人で活動することが多いため、相談する相手、議論できる相手を得ることは、間違った方向に突っ走ってしまわないためにも重要です。そして自分のモチベーションの向上にもつながります。禁煙活動や減量が一人よりもチームで行った方が継続しやすいことからわかるように、仲間を増やすことはとても良い効果を生みます。このコースは同じ志をもつ先生方が集まるため、良い仲間を増やすにはうってつけの場でした。

コロナの影響で今回はWEB開催となり、直接お会いすることはできませんでしたが、今はSNSなどネットでのつながりを持てる時代です。私も受講後に先生方とSNSでつながることができました。このつながりを大事にし、今後の産業医活動につなげていきたいと思っています。



①平野井先生講義開始 最初は全員神妙な面持ち(1日目)



②平野井先生講義終了 拍手



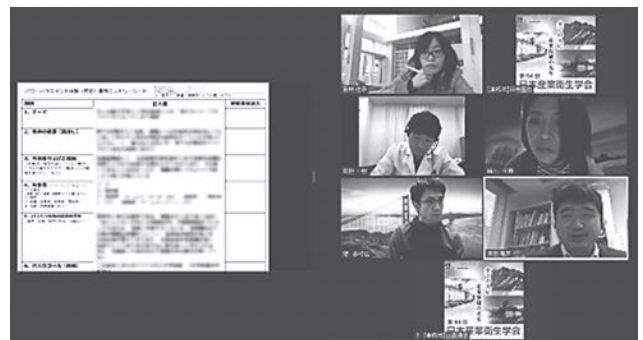
③西村先生講義 なるほど…爆笑(1日目)



④西村先生講義 笑い疲れたが勉強になる、あっという間の3時間



⑤懇親会終了 笑顔で拍手(1日目)



⑥柴田先生講義 グループワークの様子(2日目)



⑦柴田先生講義終了 お疲れ様でした



⑧Pコース全プログラム無事終了 トルネード拍手の全体写真

緊急企画 新型コロナウイルス対策特集

『COVID-19における積極的疫学調査に
産業医はいかに備えるべきか』

(関東地方会)

労働安全衛生総合研究所 統括研究員 吉川 徹

2020年秋から2021年1月にかけての新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)第3波では、保健所業務の逼迫により、一部の地域において、積極的疫学調査の縮小が行われました。具体的には、(1)濃厚接触者の特定は同居家族のみに絞る、(2)感染源・感染経路縮小のための後向き調査の簡略化、(3)特に重症化リスクが高い介護施設や医療機関従事者を優先とした調査などです。その結果、保健所の指示による事業場での積極的疫学調査が省略されることで、事業場内クラスターの早期検出、濃厚接触者の囲い込みなどが困難な事例も続出しました。2021年2月現在、保健所の積極的疫学調査体制は戻りつつありますが、今後の第4波、第5波に備え、事業場における積極的疫学調査への積極的関与、保健所等が再び積極的疫学調査縮小を実施した場合の対応を検討することが求められます。

本学会の「職域のための新型コロナウイルス感染症対策ガイド(第4版)」にも保健所との連携の重要性が整理されています。産業保健スタッフとして、積極的疫学調査の概要を理解することが日々の産業医業務に重要です。以下、有用な基本的な情報を紹介します。

- (1)「新型コロナウイルス感染症患者に対する積極的疫学調査実施要領(2021年1月8日暫定版)」(国立感染症研究所)：感染症法第15条に基づいて行われる新型コロナウイルス感染症に対する保健所などの積極的疫学調査の基本的内容を解説
- (2)「病原微生物検出情報(IASR)」(国立感染症研究所)：全国で発生したクラスター事例の分析結果詳細が掲載
- (3)「保健師のための積極的疫学調査ガイド(第2.1版(改訂2021年2月2日))」：保健所が行う積極的疫学調査を図解で解説
- (4)「保健所業務応援派遣者のための積極的疫学調査eラーニング教材」：<https://coronavirus-hokenshijinzaai.jp/>：各章10～15分程度なので、知識の振り返りや、積極的疫学調査の具体的な内容など参考になります(なお、小テストはちょっと難しいです。全問正解の方は、とても勉強されている方です。)

表 保健所業務応援派遣者のための積極的疫学調査eラーニング教材コンテンツ

- 基本的知識(小テスト含む)
 - 「新型コロナウイルス感染症の基本的知識」
 - 「感染症法上の取り扱い・保健所での対応」
- 積極的疫学調査について(小テスト含む)
 - 「新型コロナウイルス感染症における積極的疫学調査の位置づけ」
 - 「積極的疫学調査の手順」
 - 「積極的疫学調査実施要領に基づいた各書式の説明」





『コロナパンデミックを世界最大の流行国アメリカで過ごして』

(九州地方会)

センクス産業医事務所 パートナー医師 阿南 伴 美

現在、家族の都合で生活の拠点をアメリカ合衆国ミシガン州に移している。アメリカは、COVID-19パンデミックでは、感染者数、死亡者数ともに世界第1位であり、厳しい状況である。ミシガン州(人口約996.7万人)では、感染者数581,403名、死亡者数15,362名(2021/2/21時点)であり、日本(同時点:感染者424,507名、死亡者7,417名)一国を超えている。一方12月半ばからワクチン接種が開始され、同時点でアメリカ全体4600万名以上が1回以上の接種を終えている。新規感染者数は減少傾向に転じている。

ミシガン州では、2020年3月10日に最初の2例が確認され、13日からは、幼稚園から高校まですべてが休校となった。同月23日には、州知事から自宅待機命令(州知事令は法律と同等の効力がある)が出され、医療、食料品店、インフラ維持など生活に必要なビジネス以外は営業を禁止され、すべての集まりが禁止、social distancingが義務付けられ、生活に必要な最低限の活動(食料品・医薬品の買い出し、病院受診、屋外での運動など)のみが許された。それにも関わらず、当初のミシガン州は、アメリカ50州のなかでも上位5位以内に入るほど感染者が増加した。2か月間はほとんど自宅中心の生活を送ることになった。感染者は徐々に減少し6月には自宅待機命令が解除され、ビジネスも条件付きで徐々に再開された。7月には屋内の公共スペース等でのマスク着用が義務化された。夏になると、ミシガンの人々は意欲的にアウトドアを中心とした活動を楽しんでいた。その時期もミシガン州では約800名/日の感染者は発生し続けていた。11月から再流行が見られ(ピーク時約10,000名/日)、身近でも感染の話を耳にするようになった。2021年2月時点では、約1,100名/日の感染者が発生しているが、多くの人々はマスクの着用にも慣れてきて、パンデミックと共存する形で生活している。

私は自宅で行っていた研究活動に加えて、8月から東北大学の押谷教授の教室の先生方と産業医大卒業生数名でCOVID-19関連の英語の文献を要約する作業に関わらせてもらうようになった。文献的に見ても、このパンデミックは社会の脆弱なところを露呈させていると思う。アメリカでいうと治安、教育、医療、人種等における地域格差である。パンデミックは私たちに多くの気づきをもたらすきっかけにもなっている。長期戦となっており、悲惨なことも多く、時にやるせなくなるが、社会全体がより良い方向に変化するきっかけとなることを願ってやまない。

シリーズ 私たち頑張っています!



『新型コロナウイルスの影響と日常業務と』

(北海道地方会)

小樽商科大学 保健管理センター 高橋 恭子

この度は産業医部会報に寄稿の機会をいただきましてありがとうございます。小樽商科大学で産業医をしています高橋恭子と申します。このコーナーの「私たち頑張っています」にふさわしい特別な活動はできていませんので、この新型コロナウイルス流行下の現状を振り返ってお伝えいたします。

現在の職場では学校医と産業医を兼務しています。教職員数200人強、学生数は2300人程度の単科大学であり、札幌市に隣接する小樽市に所在しています。教職員も学生も札幌市から通っている人が地元の小樽市に在住している人より多く、今回の新型コロナウイルス流行に際しては、大都市の札幌市にかかる制限や対策を考慮に入れた対応が求められてきました。

2020年度の前期から、他大学と同様に授業の大部分が遠隔実施となりましたので、学生向けの業務のほとんどが遠隔対応となりました。遠隔授業の配信は自宅からも可能ですので教員はテレワークが推奨されましたが、授業にかかる業務量が増加し、在宅ワークの増加で労働時間が把握しにくいことが懸念材料です。また、VDT作業時間の増加も健康管理上の課題です。在宅で授業を受けている学生からは「1日に100歩くらいしか歩いていない」との声も届いており、ステイホームによる身体活動の低下は職員、学生ともに深刻で、生活習慣病リスクを低減する対策が必要と考えています。早期に異常を探知する上でも健康診断の受診は重要ですが、ここでも人間ドックなどは予約が取りにくいなど新型コロナウイルス感染症の影響が出ており、長期的な影響を低減するためにできることを模索中です。また、在宅ワークは日常的な対面でのコミュニケーションが減少することにより、同僚、上司からのサポートが得にくいといった側面もあり、精神的な負荷も増大しています。孤立しがちな職員のサポートについても重要と考えています。

大学生は学校保健の枠組みとしては集大成の時期です。大学卒業後に社会人生活を支える健康状態を維持するための知識、技能を身に着ける期間 = 「プレ産業保健」と位置づけ、学生には長期的な視点を持ち健康教育を実施したいと考えています。産業医の先生方のご指導をいただきながら、業務を進めたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

シリーズ はじめまして！



『A rolling stone gathers no moss』

(四国地方会)

住友化学株式会社 愛媛工場 愛媛診療所 渡邊 武彦

皆さま、はじめまして。2020年に入会させて頂いた渡邊武彦です。愛媛県新居浜市にある住友化学株式会社 愛媛工場で専属産業医をしております。

2020年1月より当工場で産業医をしていますが、大阪から赴任して来て一番驚愕したことは、当地の厳しい気候です。自転車で工場まで20分間かけて通勤しているのですが、冬季に手袋を忘れて手の先が凍傷になりかけたことさえあります。引継ぎのときに、新居浜市ご出身の前任産業医先生にそのことを話すと、「ここは裏日本だからね。」と慰めてくれました。その理由ですが、新居浜市のすぐ南に標高が1500m～1700mクラスの山が連なる赤石山系があります。赤石山系のすぐ北側には海岸線が迫っていて、1500m以上の連峰がこのように海岸に近いところにあるのは、日本でも例を見ないようです。赤石山系(冬季は雪山となります)から吹き下ろす寒風とは別に、日本三大局地風である「やまじ風」の脅威にも新居浜市は晒されています。温暖な南国に来たはずなのですが。その一方、赤石山系には銅山峰を中心として、日本三大銅山のひとつに数えられた「別子銅山」があります。別子銅山から産出した銅を新居浜工場で精錬する過程で発生する煙害となる亜硫酸ガスを処理する目的で設立されたのが、現在勤務している住友化学株式会社 愛媛工場です。

私はこれまで、某官庁、鉄道会社、銀行での産業医経験があります。1994年に労働衛生コンサルタント資格を取得しました。1988年に香川医大医学部を卒業後、郷里に帰り地元大学の医局に入局し、内科医と産業医を交互に勤めておりました。医学博士取得後には脂質代謝の研究のためにカナダに留学しました。カナダのトロント大学でポスドクをしていた時に、同僚のカナダ人研究者に言われたことが印象に残っています。私が日本で色々な職場を転々としていることを謙虚に“A rolling stone gathers no moss”と言ったところ、彼女は「それはカナダでは非常に素晴らしいことよ」と言ってくれました。つまり北米では「転石苔むさず」とは「世の中に合わせて、柔軟に行動が変わることにより、失敗を避けることができる」という意味らしいです。国歌の最後が「苔のむすまで」で終わるこの国でこの考えが通用するかどうかわかりませんが、今後は色々な考えを柔軟に取り入れることにより学び続けていきたいと思っています。

年齢を経ているもまだ「若輩者」ですので、皆さま方のご指導・ご鞭撻の程何とぞよろしくお願い申し上げます。

部 会 員 か ら の お 知 ら せ コ ー ナ ー



『一般社団法人産業保健メンタルヘルス研究会の紹介』

(東海地方会)

ジヤトコ株式会社 統括産業医 西 賢 一 郎
(本研究会理事)

日々の業務を経験する中で産業医学(産業保健)は実学であると実感される先生方は多いと思います。働く人を取り巻く様々な産業保健に関する課題に対して、資料を調べ相談し試行錯誤しながら対応するので苦労も多いかと思えます。特にメンタルヘルスに関わる問題はどの業種でも起こるので頭を悩ませます。そんな実務を進める上での素朴な疑問・問題について、産業医・弁護士・社労士・企業経営者などが集まり教科書や参考本に書けないリアル話を含めた情報交換を数年前より不定期で開催していた会を法人として2020年6月29日に設立しました。代表理事はあの有名な「ケチな飲み屋」サインを発案の鈴木安名先生で、理事には労働裁判の経験豊富な峰隆之弁護士、元監督官の北岡大介社労士、そして私の4人です。同9月に開催したZOOM座談会では、テレワークにおけるパワハラをテーマに、それぞれの視点から発言があり、峰理事からは矛盾の多い最近のパワハラ判例など、世の中にあまり知られてない結論の不思議な判例などについても議論する企画に、理事の紹介で募集し、40名ほど参加がありました。奥の深い内容でちょっと難しかったかもしれませんが、学問では語れない実務経験を元にしたリアルな話で、興味のある方に好評だったようです。

「産業保健における医学知見の普及・促進の普及並びに会員の技量向上を図ると共に、産業保健における学術研究・知識の習得を通じた交流を行い、もって学術及び文化の振興並びに国民の豊かな人間性の涵養に寄与すること」と研究会定款の文章は堅いですが、座談会の内容や各種媒体への寄稿を通じて、実務上での「ぶっちゃけどうなの？」に対して、話題提供を目的としています。各職種の本音トーク満載ですので、時には脱線もありますが、脱線から新たな知見が生まれる。これが当研究会の魅力です。しかも、専門職だけではなく、経営者や人事労務の担当者も関わるのでその幅も広がり、今後もホームページや書籍で職場におけるメンタルヘルス問題の痒い所に手が届く情報発信を行います。この会は当面は会員制にせず参加希望のある方に参加いただく形で活動し、様々な意見を否定せずに交換することを重視しています。このような開催ですが、参加希望の先生はいつでも私に連絡いただければ研修会の案内を連絡いたします。ご興味のある先生はぜひお待ちしております。

連絡先：nishiken@v101.vaio.ne.jp



『産業医ガイド(第3版) 発刊しました』

(関東地方会)

日本産業衛生学会 関東産業医部会長
i・OH研究所

福本正勝

日本医師会認定産業医は10万人を超え、産業医のニーズは質量ともに求められる時代になっている。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、その対応も多様化しているが、産業医としての基本、産業衛生業務を遂行することには変わりはない。

第3版は、2020年4月施行の労働基準法・労働安全衛生法改正に伴う「働き方改革」を踏まえ企画・編集をさせていただいた。本書初版発行から10年を経て、今回第3版を発刊できた。産業医のほとんどは嘱託産業医であり、その「嘱託産業医が実践ですぐに利用できる参考書」を目指して企画・編集した。今回もそのコンセプトを踏襲した。

産業衛生を主導・牽引する産業医は、労働者の安全・健康を「衛る」こと、業務内容を含めた職場環境を把握すること、そして企業の特徴を踏まえ、事業主への労働安全衛生体制整備へ指導・助言など、その求められる能力のニーズが明らかに高くなっている。新型コロナウイルス感染症対策から「withコロナ」時代への対応まで、産業医の真価が問われる時代である。コンプライアンス遵守だけの考え方から、本当の意味で労働者、そして企業をも「衛る」役割がより求められる時代になるだろう。

本書の特徴は主に以下である。

- ・産業衛生の基本から応用まで、重要な項目が必要十分にまとまっている
- ・多職種連携などを踏まえ、多くの職種との役割が理解できる
- ・生産性などビジネスに関わる基本的な知識も網羅
- ・引用文献やURLなどを記載

多くの産業医、また産業衛生に関わる方々に手にとりいただき、少しでも日常の業務に活用していただけることを祈念している。また、本書の内容などについて、ご意見ご指導をいただければ幸いである。

改訂発刊にあたり、ご多忙の中、ご執筆いただいた先生方、編集いただいた日本産業衛生学会関東産業医部会幹事に、この場をお借りして御礼を申し上げる。



産業医部会、各地方会 行事開催予定一覧(2021年5月～2021年12月)

開催年月	産業医部会	地方会	名称	日時・開催地
2021年 5月	2021年度 第1回幹事会			2021年5月19日(水)9:00～11:30 第94回日本産業衛生学会 会議室①(まつもと市民芸術館 3F スタジオ2)
	第94回 日本産業衛生学会 産業医フォーラム ※新型コロナウイルス感染症の流行状況により、変更される 可能性があります。ご注意ください。			2021年5月20日(木)17:05～19:05 (16:45～総会、総会終了次第開始) 第94回日本産業衛生学会 第3会場(まつもと市民芸術館 3F オープン スタジオ)
	社会医学系専門医制度 関連		社会医学系専門医のための 講習会(日本産業衛生学会基本 プログラム講習会)	未定
			社会医学系専門医指導医 講習会	2021年5月19日(水)16:15～17:15 第94回日本産業衛生学会 深志神社梅風閣 第4会場(松本市)
	産業衛生専門医制度関連		産業衛生専門医制度説明会	2021年5月21日(金)13:10～14:10 第94回日本産業衛生学会 深志神社梅風閣 第5会場(松本市)
6月				
7月		東北地方会	東北地方会第24回 産業医協議会	7月24日(土)15:10～16:40(予定) 秋田県医師会館(秋田市)
8月	会報 第73号(2021年8月号)発行予定			
	産業衛生専門医制度関連	日本産業衛生専門医試験		未定
	社会医学系専門医制度 関連	社会医学系専門医制度 専門医試験		未定
10月		北海道地方会	令和3年度 日本産業衛生学会 北海道地方総会	2021年10月23日(土) 大雪クリスタルホール(旭川市)
		近畿地方会	近畿産業医部会 産業医研修会	2021年10月23日(土) 第26回近畿産業医部会研修会 パナソニックリゾート大阪
		北陸甲信越 地方会	2021年度日本産業 衛生学会 北陸甲信 越地方会 第64回総会(兼 新 潟産業保健研究会 第29回研修会)	2021年度10月31日(日)9:30～15:00 新潟県医師会館 大講堂 (新潟市中央区医学町通2番13番地)
11月				
12月	2021年度 第2回幹事会			2021年12月(予定)
	第31回日本産業衛生学会 全国協議会			2021年12月3日(金)～12月5日(日) 三重県総合文化センター

内容等	その他
<p>テーマ:テレワークと産業保健 座長:高山英之先生(株式会社高山産業医事務所) 杉原由紀先生(高知県庁総務部職員厚生課)</p> <p>演者: ①ニューノーマルにおける新たな働き方 阿萬野晋先生(富士通株式会社 総務・人事部) ②テレワークにおける VDT 症候群とその予防策について 原直人先生(国際医療福祉大学 保健医療学部視機能療法学科) ③遠隔産業衛生の現状と課題 石澤哲郎先生(産業医事務所セントラルメディカルサポート/ 遠隔産業英英研究会) ④テレワーク導入による産業保健活動の変化 濱田章裕先生(株式会社電通)</p>	<p>主 催: 日本産業衛生学会産業医部会</p>
<p>内容は後日ご案内いたします。</p>	<p>第 94 回日本産業衛生学会 https://convention.jtbcom.co.jp/sanei94/</p>
<p>内容は後日ご案内いたします。</p>	<p>第 94 回日本産業衛生学会 https://convention.jtbcom.co.jp/sanei94/</p>
<p>内容は後日ご案内いたします。</p>	<p>第 94 回日本産業衛生学会 https://convention.jtbcom.co.jp/sanei94/</p>
<p>テーマ:温故知新～先輩産業医からのメッセージ 演者:広瀬俊雄先生、中尾重直先生</p>	<p>第 80 回日本産業衛生学会東北地方会 7 月 23 日(金)～24 日(土) 学会長:野村恭子(秋田大学)</p>
	<p>詳細については日本産業衛生学会専門医制度委員会 HP (http://jaoh-caop.jp/) にアップされる予定</p>
	<p>詳細については社会医学系専門医制度協会 HP (http://shakai-senmon-i.umin.jp/) にアップされる予定</p>
<p>未定</p>	
<p>メインテーマ:“(仮)コロナ時代の職域における生活習慣対策” 実行委員長:西田和彦(長谷工) ◆第 1 部 基調講演(仮)コロナ時代の職域における循環器疾患管理について 大阪大学循環器内科学 教授 坂田泰史先生 ◆第 2 部 シンポジウム(演者): 産業医、産業看護、産業歯科医より各 1～2 名登壇(予定)</p>	<p>第 61 回近畿産業衛生学会(10 月 23 日)内での実施とし、 産業看護部会との共催企画</p>
<p>・日本産業衛生学会北陸甲信越地方会産業医部会総会等 ・シンポジウム テーマ:「with コロナ時代の産業保健」 座長 新潟産業保健総合支援センター所長 興梶建郎先生 1)臨床現場から見た新型コロナウイルス感染症(仮) 新潟市民病院感染症内科科部長・感染制御室長 影向晃先生 2)with コロナ時代のメンタルヘルス対策(仮) 医)崇徳会こころのクリニック ウィズ院長 後藤雅博先生 3)在宅勤務と健康管理(仮) 国際石油開発帝石株式会社 国内 E&P 事業本部 保健師 牛腸伸枝先生 4)質疑応答</p>	<p>大会長:新潟県医師会長 堂前洋一郎先生 主 催:日本産業衛生学会北陸甲信越地方会 共 催:新潟県医師会・新潟産業保健総合支援センター 新潟産業保健研究会 事務局:新潟県医師会 事務局長 中平浩人(産業保健担当理事) 事務担当 渡辺健太郎(業務課)</p>
<p>メインテーマ:経済社会と健康:ポストコロナの産業衛生を考える</p>	<p>学会 HP: https://procomu.jp/sanei-zenkoku2021/gakkai.html</p>

編集委員会よりお知らせ

(1) 医部会報における二重投稿(著作物)の考え方

一般的に、新たな創作性の認められない①ありふれた表現 ②歴史的事実やデータ ③事実の伝達にすぎない報道等 ④法律や裁判所の判決等 などは著作物にあたらないとされています。したがって、編集委員会としては、他媒体に既掲載のものと言一句、同一の原稿は二重投稿と判断しますが、事実記載が一部同一であるだけでは二重投稿とみなしません。投稿者が判断に迷う場合は、申し出に応じて、編集委員会で個別に審議のうえ判断します。また著作物(文章・画像)を医部会報へ転載・引用する場合は、著作者の許可を得るか、引用を明記して、許可・引用の範囲内で適切に使用してください。

参考：(公社)著作権情報センター(CRIC) <https://www.cric.or.jp/qa/hajime/hajime1.html>

(2) 部会員からのお知らせコーナー ご活用ください

学会や研究会など部会員の関わる行事の告知や著書紹介など、情報の周知を目的としたコーナーです。掲載ご希望の方は、事務局宛てに原稿(字数400字程度+写真1枚)をメールでお送りください。なお掲載に関しては、医部会活動目的に照らし編集委員会にて審議のうえ決定させていただきますので、ご了承のほどお願いいたします。

(3) 自由投稿を歓迎します

部会報は部会員の交流の場です。編集委員会として、より多くの皆様のご意見などを紹介したいと考えています。1,000字程度にまとめ、事務局宛てメールにて、ご送付ください。

(4) バックナンバーは産業医部会ホームページにて公開しています。

<https://sangyo-ibukai.org/>



(5) ご意見をお待ちしています

皆様のご期待に沿えるよう、より一層誌面の充実に努めてまいります。ご意見や企画案など、是非、事務局までお知らせください。よろしくお願いいたします。

【事務局連絡先】(公社)日本産業衛生学会 産業医部会事務局

Eメール：sanei.4bukai@nifty.com TEL：03-3358-4001 FAX：03-3358-4002

編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大から1年あまり。今ではZoom等の会議や研修会が頻繁に開催される状況となり、手帳にも予定の書きこみが増えてきました。また実地開催についても、感染対策をふんだうで徐々に再開されつつありますが、自ら主催する際には、感染動向を睨みつつ、直前まで開催の可否判断や実施方法に悩んだり、新たな苦労も経験しています。

感染収束の見通しが未だつかず、閉塞感の漂う状況ですが、今号では産業医部会員から日本医師会の常任理事に就任された神村裕子先生に巻頭言を賜りました。また、新たに専門医となられた若い先生方からは抱負(ご提案も)をご寄稿頂きました。

ベテラン、指導者から、若手まで連綿と続く産業医部会。先生方の交流の場として、産業医部会報もお役に立てれば幸いです。

(H)

編集委員会委員

石川 浩二(三菱重工)、 彌 富 美奈子(SUMCO)

◎谷 山 佳津子(朝日新聞)、○原 俊之(北海道労働保健管理協会)

◎：編集委員長、○：第72号編集担当(五十音順)